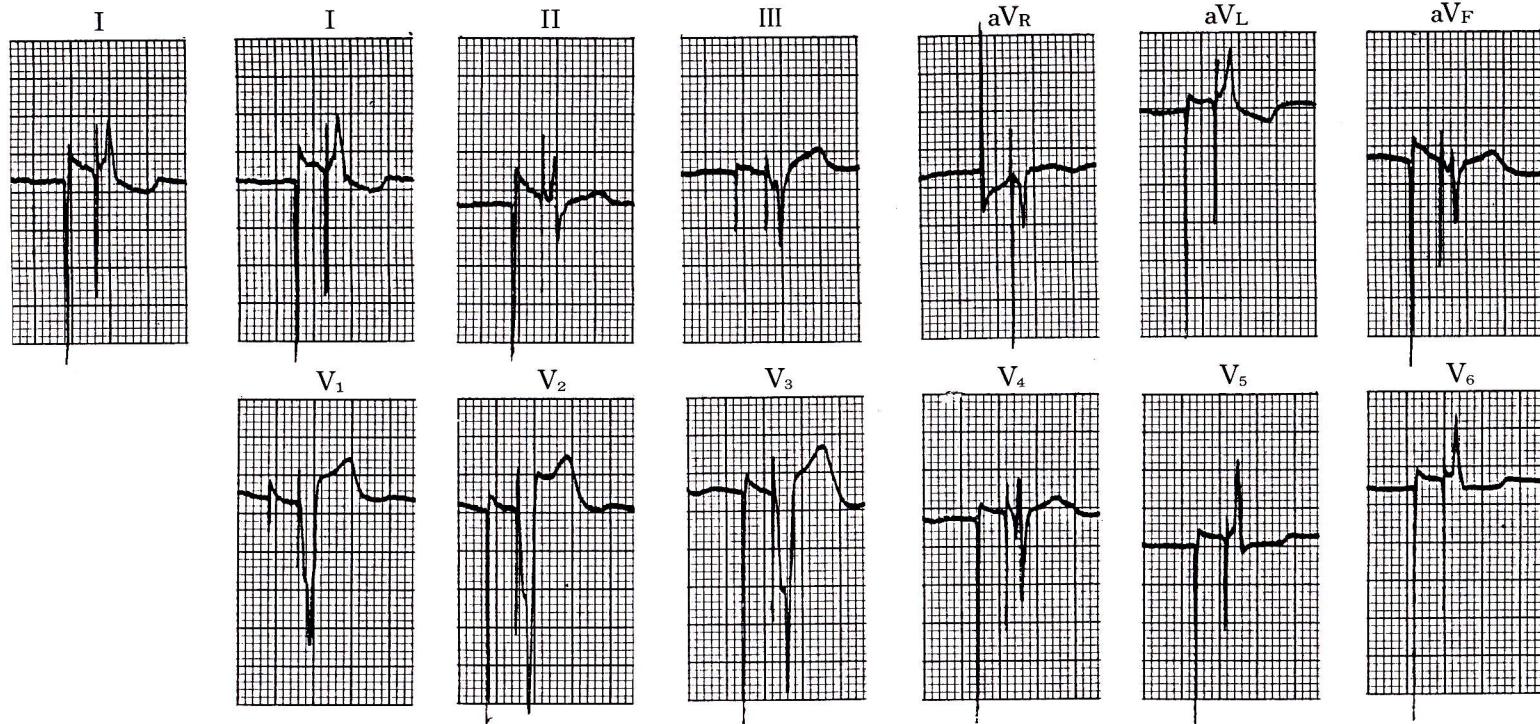


症例 75

●53歳 女

●アダムス・ストークス発作のため入院、加療中の患者の心電図。



1) スパイク状の鋭い振れが各誘導に 2 つずつあるが何か。

セクエンシャルペーシング心電図

0.16秒(4mm)の間隔をおいて、2本のスパイクがみられる。前の方が心房のペーシングスパイクであり、その0.16秒(4mm)後に、つぎの

スパイク（心室ペーシングスパイク）がはいつている。一定間隔をおいて、心房と心室をつづけて刺激するセクエンシャルペーシングである。

MEMO

〈ペーシングの種類〉

164

ペースメーカには固定レート型とデマンド型がある。固定レート型は自己心拍の有無にかかわらず、一定の間隔で刺激を出すもので、自己心拍のT波頂上付近(受攻期)にペースメーカスパイクがはいることがあるため、自己心拍が出ている症例では好ましくない。デマンド型は一定期間心拍が欠如すると刺激を発生するようになっているため、自己収縮がはいると、その間は刺激発生を休むので、先行心拍の受攻期にスパイクを出すことはない。

セクエンシャルペーリングは心房収縮(P波)をセンスし、P波が出れば、その一定時間後に心室を、P波が出ない場合には一定時間隔で心房と心室の両者を刺激するもので、心房収縮による左室充満が効くことと、P波が出ている症例では労作時の心拍数上昇が期待できるため、心室ペーリングに比し、より生理的である。